



決め手は、青森県産。



りんご生産情報第3号
(5月11日～5月24日)

平成30年5月10日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

黒星病の重点防除時期!
「ふじの落花直後」の薬剤散布は5月11～12日頃!!
実止まりを確認後、すみやかに摘果を!!!

I 要約

りんごの生育は、4月下旬の好天もあり、平年よりも進んだままで推移し、ふじの満開日は、黒石（りんご研究所）で平年より6日早い5月7日、五戸（りんご研究所県南果樹部）で9日早い5月6日であった。

第3回目「ふじの落花直後」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で5月11～12日頃である。「落花20日後頃」までは黒星病の子のう胞子が多く飛散し、重要な防除時期であることから、薬剤散布は10日間隔を遵守する。なお、散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。被害葉は見つけ次第摘み取る。

本年の開花量は、園地によっては品種や樹でバラツキが見られるものの、全体的には十分であることから、摘果は実止まりを確認後、すみやかに実施する。

II りんご生産情報

1 生育、作業の進み、病害虫の動き

(1) 生育ステージ

4月下旬の好天もあり、生育は平年よりも進んだままで推移し、ふじの満開日は、黒石（りんご研究所）で平年より6日早い5月7日、五戸（りんご研究所県南果樹部）で9日早い5月6日であった。

○満開日 (月・日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5. 8	5. 6	5. 6	5. 7
	平 年	5.13	5.13	5.12	5.13
	前 年	5.11	5.10	5. 9	5.11
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5. 7	5. 6	5. 5	5. 6
	平 年	5.15	5.14	5.13	5.15
	前 年	5. 9	5. 8	5. 7	5. 9
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	5. 7	5. 5	5. 4	5. 7
	平 年	5.12	5.10	5.10	5.13
	前 年	5. 8	5. 7	5. 6	5. 9
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	5. 8	5. 6	5. 6	5. 9
	平 年	5.13	5.12	5.11	5.14
	前 年	5.10	5.10	5. 8	5.11
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	5. 5	5. 4	-	5. 4
	平 年	5.11	5.10	-	5.11
	前 年	5. 8	5. 8	-	5. 8

注1) 満開日：頂芽花の70～80%開花したとき

注2) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 作業の進み（5月8日現在）

「ふじの開花直前」の薬剤散布は、5月1～2日頃が盛期であった。
人手や機械による授粉のほか、摘花が実施されている。

(3) 病害虫の動き

(5月8日現在 りんご研究所)

腐らん病	病斑の伸展、胞子の飛散とも継続中
モニリア病	葉腐れ初発：黒石4月25日、平年：黒石5月1日 まもなく実腐れがみられる（平年：黒石5月22日）
黒星病	まもなく葉上病斑がみられる（平年：黒石5月14日） 子のう胞子の飛散状況はアップルネット (http://www.apple.net.jp/) に掲載中
うどんこ病	分生子の飛散継続中 (第1次発生 本年：黒石4月17日、平年：黒石4月24日)
キンモンホソガ	幼虫が葉を加害中
ギンモンハモグリガ	幼虫が葉を加害中
ミダレカクモンハマキ	越冬卵からのふ化ほぼ終了 (越冬卵ふ化終了 平年：黒石5月13日) 幼虫が葉・花を加害中
リンゴハダニ	越冬卵からのふ化継続中 幼虫～若虫が葉を加害中
クワコナカイガラムシ	5月下旬から越冬世代幼虫の移動が始まる見込み (越冬世代幼虫の移動初発 平年：黒石5月22日)

2 作業の重点

(1) 黒星病対策

今後、「落花20日後頃」までは黒星病の子のう胞子が多く飛散し、重要な防除時期であることから、薬剤散布は10日間隔を遵守する。なお、散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。被害葉は見つけ次第摘み取る。

(2) うどんこ病対策

発芽から開花までの間に、感染した芽から発芽した花・葉そうが、白い粉に覆われ、生長が停止して奇形化（芽しぶ）し、伝染源となる。

近年、発生が目立ってきているので、被害花そう・葉そうは伝染源の密度を下げるため、見つけ次第、枝ごと摘み取る。

(3) 第3回目の薬剤散布「ふじの落花直後」

「ふじの落花直後」の散布は、黒星病の重点防除時期なので、「ふじの開花直前」散布の10日後に実施する。

開花期間が長引いた時は、満開が過ぎたら、花が残っていても散布する。

なお、フルーツセイバー又はユニックス顆粒水和剤47は薬剤耐性発達の懸念があるため、同一薬剤を連続して使用しない。

第3回目：「ふじの落花直後」

地域	時期	基準薬剤	散布量/10a
黒石	5月11～12日頃	フルーツセイバー 2,000倍	3500
弘前		又は ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍	
三戸		+ チウラム剤 500倍 又はジマンダイセン水和剤 600倍	

ミダレカクモンハマキの防除は、「開花直前」に選択した薬剤をこの時期にも使用する。

開花期にリンゴハダニの発生が多い園地では、バロックフロアブル2,000倍も使用する。

(4) 第4回目「ふじの落花10日後頃」の薬剤散布

黒点病などの防除対策上でも重要な時期なので、散布量や散布間隔を守る。

第4回目：「ふじの落花10日後頃」

地域	時期	基準薬剤	散布量/10a
黒石	5月21～22日頃	炭酸カルシウム水和剤 100倍	3500
弘前		チウラム剤 500倍	
三戸		又はジマンダイセン水和剤 600倍	

うどんこ病の発生が多い園地では、トップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

(5) 摘果

摘果は、果実肥大増進や品質向上、隔年結果防止、樹勢維持のために重要であり、いずれの品種も早期適正着果が原則である。

本年の開花量は、園地によっては品種や樹でバラツキが見られるものの、全体的には十分であることから、摘果は実止まりを確認後、すみやかに実施する。

果実形質の良し悪しが判然としない落花15日後頃までは、一つ成り摘果とし、判別が可能になった時点から仕上げ摘果を行う。ただし、つがるなどのように早期落果の多い品種では、落花10日後頃までに一つ成り摘果を終える。仕上げ摘果は標準的な着果程度を目安に、陸奥、世界一では落花15日後頃までに、その他の品種では落花25日頃までに終えるようにする。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・春明21・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥・世界一	5頂芽に1果

(6) 薬剤摘果

結実量が多く、摘果作業が遅れそうな園地は、積極的に薬剤による摘果を行う。摘果剤は、ミクロデナポン水和剤85の1,200倍を使用し、果実に薬液が十分かかるように、展着剤を加用して10 a 当たり3500以上を散布する。

散布時期は、ふじ、陸奥、王林、北斗、さんさ、早生ふじ、トキ、春明21、シナノスイートでは「満開後2週間頃」（ふじでは中心果の横径10mmくらい）、紅玉、星の金貨では「満開後3週間頃」（紅玉では中心果の横径16mmくらい）の1回である。つがる、世界一など早期落果の多い品種やジョナゴールドに本剤がかかると落ちすぎることもあるので、かからないようにする。

本剤散布による落果は、散布10日後頃から始まり、以後10～14日間継続する。

ただし、年によっては、効果の発現が遅れたり、不十分な場合もあるので仕上げ摘果は遅れないようにする。

(7) ふじ・早生ふじのつる割れ軽減対策（ヒオモン水溶剤の利用方法）

例年、つる割れの発生が多い園地ではヒオモン水溶剤3,000倍の満開20～30日後散布によりつる割れの発生を軽減できる。なお、使用に当たっては次のことに留意する。

ア 単用散布とする。

イ 散布後に葉がしおれる症状を示すが、1週間後頃にはほぼ回復する。

ウ 高温・乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。

エ 極端に樹勢の弱い樹への散布はさける。

オ 果実肥大が抑制される場合がある。

カ 新梢の二次伸長を助長する場合がある。

キ 摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）を散布した後に本剤を使用した場合、摘果剤の効果が抑制される。

(8) 腐らん病対策

枝腐らんは、見つけ次第、切り取って処分し、胴腐らんは、再発病斑を含め見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

ア 泥巻きを行う場合は、周辺健全部を含めて病患部に厚く泥を張り付ける。

イ バッチレートまたはフランカックスプレーを使う場合は、周辺健全部を含めて病患部を紡錘形に削ってから塗る。

ウ トップジンMオイルペーストを使う場合は、病患部を削り取り、さらに浸透性を高めるために周辺の健全表皮（上下約5cm、左右2～3cm）を薄く削ってから塗る。

エ 胴腐らんの発病が著しい樹は、病原菌の伝染源になるので積極的に伐採する。

(9) モニリア病対策

葉腐れ、花腐れ、実腐れ、株腐れは、園内を見回り、見つけ次第摘み取って、土中に埋めるなど必ず適切に処分する。

(10) 輪紋病対策

枝幹のいぼ病斑は、できるだけ削り取って、トップジンMペーストを塗る。

(11) 交信攪乱剤の設置

交信攪乱剤コンフューザーRは、5月下旬～6月上旬に園地内に取り付ける。広い面積で処理するほど効果が高いので、できるだけ地域ぐるみで取り組む。

(12) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

苦土欠乏は、土壌の酸性化に伴うマグネシウムの溶脱などによるものであり、欠乏症がみられたら、次表に従い葉面散布用の精製硫酸マグネシウム（グリーントップまたはグリーントップ70）を1～2回散布する。2回散布する場合は、散布間隔を7～10日あける。

なお、苦土欠乏は、土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

資材名	マグネシウム含有量 (%)	水1000当たり使用量 (倍数)	
		5月末まで	6月以降
グリーントップ	16%	1,500 g (67倍)	2,000 g (50倍)
グリーントップ70	23%	1,000 g (100倍)	1,400 g (71倍)

(13) 乾燥対策

無降雨状態が続く場合は、苗木や若木を主体に1m²当たり200程度をかん水する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(14) 霜害防止対策

気象情報に十分に注意し、降霜の恐れがある場合は、防霜ファンや燃焼法による対策を実施する。

3 一般作業

(1) 摘花 (2) 草刈り (3) ひこばえ、徒長枝の切り取り (4) スコアリング

4 今後の作業予定 (5月25日～6月6日)

(1) 薬剤散布(落花20日後頃) (2) 摘果 (3) モニリア病対策
(4) 腐らん病対策 (5) 交信攪乱剤の設置 (6) ビターピット対策
(7) クワコナカイガラムシ対策 (8) 輪紋病対策

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

黒星病徹底防除推進期間中 (4月～6月)

りんご黒星病の撲滅に向け、適期適量散布による薬剤防除に加え、菌密度を下げるための落葉処理等の耕種的防除にも取り組みましょう。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 りんご共済や農業経営収入保険に加入しましょう！ 》

○りんご共済

「りんご共済」は、風・ひょう・霜などの自然災害等により損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

○農業経営収入保険

平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

日本一健康な土づくり強化月間（平成30年4月～5月、9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

青森県農薬危険防止運動展開中！（5月1日～8月31日）

農作業事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

霜害対策を万全に！

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

次回の「りんご生産情報」第4号は5月24日（木）発表の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 5092, 5094
 017-734-9492直通